



パスト・ガバナー 菅生 浩三

(大阪北RC)

毎年1月27日（ロータリーの創始者ポール・ハリスが逝去された日）を含む1週間が、「追悼記念週間」であります。

トルコのコナックRCの提案に基づき、1988年10月のRI理事会は、各RCが物故会員の冥福を祈り、生前のロータリーに対する貢献を記念する公式の週間として、この1週間を「追悼記念週間」“Rotary Commemoration Week”に指定しました。

この週間を迎えて各RCの会員が自分のクラブの物故会員のありし日を想起し、その活動や貢献について認識を深め、クラブの充実や発展の資とするよう努めることは、大変意義深いことであります。

もちろん、人間愛を血肉としてロータリーに生命を与えたポール・ハリス、その人間愛をサービスの理念という基本原理のソフトに構築したアーサー・シェルドン、ロータリーに確固とした組織と運営の基礎のハードを与えたチェスリー・ペリー、ロータリーの活動にロータリー財団という強力な財政の基盤を用意したアーチ・クランプなど、ロータリーの今日を築き上げた偉大な先輩ロータリアンを追悼してその実績を記念することは、極めて有意義であります。

しかしながら、ロータリーの核心は、各

RCにあります。その各RCの物故された先輩会員には、色々な方がおられたことでしょう。人様のことをしっかりと考えておられた方、ご自分の仕事を立派に遂行された方、地域や他国の人々のために素晴らしい活動の成果を残された方、クラブの管理面で活躍された方、クラブで指導力を発揮された方、ロータリーの理論に強かった方、実行力に優れていた方、情操の深かった方、着想のすばらしかった方、趣味に恵まれていた方、友人の面倒見のよかった方、弁舌の立った方、お付き合いが豊かであった方、物静かに周囲を見つめておられた方など、多くの個性豊かな立派な方がおられたことと思います。

これらの方々は、物故されたとは言え、永く将来に向けて各RCの宝であり、含み資産であります。現在の会員がそのような物故された先輩を思い出し、その事蹟の反芻に努めることは、知らず知らずのうちに、クラブの人間関係や活動に深みと広がりを与えることとなりましょう。このような意味で、どうか各RCにおかれましては、この週間を迎え、クラブの物故会員を想起してその冥福を祈り、ありし日の実績を記念することに努めていただきたいと思います。